Community Medicine
── 地域医療の架け橋 ──

つばさ

2012年１月発行

第 30 号

社会保険神戸中央病院

〒651-1145
神戸市北区惣山町２丁目１－１
TEL　078－594－2211
FAX　078－594－2244
http://kobe-hosp.jp/

地域の皆さまに信頼される病院として
安全で質の高い医療を提供します。

院長　西尾　晃

謹んで新年のお慶びを申し上げます。
平成二十四年が幕を開けました。この新しい一年が皆様方にとりまして、これまでのどの年よりも良い年となりますよう、祈念いたしますところです。
十二支では、今年は龍の年。干支ではただ一つの想像上の動物ですが、雲に乗り水を司る、古代の農耕社会では雨は豊かな稔りに欠かせぬもの、龍は瑞兆とされているようです。天にも昇る勢いを、いささか沈滞気味のこの社会にも与えてもらいたいところです。
昨年は東日本大震災や台風による水害など、私たちの国土は大きな天災に見舞われました。また原子力発電所の事故は、命を紡いで行く上で一番根幹的な問題であるエネルギー確保の手段を、根本から問い直すようにと迫っています。この新しい一年が山積したこれらの課題を、大きく克服する第一歩となる年であって欲しいと願うところです。
さて、私ども社会保険神戸中央病院にとりましても昨年は大きな節目の一年でありました。ここ数年来、社会保険病院がその経営母体である社会保険庁の解体の結果、民間等に売却されて公的病院としての機能を失うのではないかと、皆様方にたいそうご心配をおかけして参りました。しかし昨年６月、社会保険病院群のあらたな引き受け先として独立行政法人　地域医療機能推進機構の設立が法律的に認められ、私どもの病院もその新機構の一つとなり公的病院として存続してゆける可能性が大きく開かれました。これはひとえに、地域の皆様方のご声援のたまものと、深く感謝いたしますところです。また、昨年の12月には現在神戸市内では５つしかない地域医療支援病院の認可を受けました。地域における医療を支援する立場の病院として認められ、またこれを果たしてゆくための使命も与えられました。職員一同、このあらたな使命を全うするためにも、よりいっそう皆様方のお役にたてるよう、精励してまいる所存です。よろしくご指導、ご鞭撻たまわりますよう、お願いいたします。
昨年は電子カルテシステムの導入や、外来診療室や採血・検査室の改変や移動など、ながらく病院をご利用いただいていた皆様には、少なからぬ当惑とご不便をおかけしました。改めてお詫び申し上げますと共に、本年もまた暖かなご声援を賜りますよう、お願い申し上げます次第です。
本年が皆様方にとり素晴らしい一年でありますよう、お祈り申します。

年男ご紹介

中川（なかがわ）　登（のぼる）：外科
手術のできる外科医育成の辰（達）人をめざして！！
一期一会日々是好日。

田中（たなか）　哲也（てつや）：循環器内科
体力的に厳しくなってはいますが、それでも精一杯前に進んでいきたいと思っております。

坂本（さかもと）　泉（いずみ）：小児科
息子が高校生のため若いつもりでいましたが、ここ数カ月の間に２回も、入院患児におじいちゃん先生と言われ、ドキッとしました。今年還暦になってしまいますので致し方ないですかね。

加藤（かとう）　勘明（かんめい）：整形外科
明けましておめでとうございます。
赴任して約半年が過ぎ、いろいろな面で慣れてきたこともあり、今年はさらに診療の幅を広げて地域医療に貢献できればと思っております。

新任医師紹介

安藤（あんどう）　通崇（みちたか）：消化器内科
愛知県の病院より消化器内科医として赴任しました。
神戸市北区の医療に貢献できるよう頑張りたいと思います。

西田（にしだ）　龍朗（たつろう）：外科
京都府立医科大学消化器外科から赴任しました。
地域の皆様に安全で良質な医療を受けて頂けるよう精一杯努力致します。よろしくお願い致します。

柴田（しばた）　敏章（としあき）：耳鼻いんこう科
３年ぶりに当院に戻ってまいりました。今年は不惑の年ですので、機能外科医として多くの患者さんのお役に立てるよう新たな気持ちで頑張ります。

退任医師のお知らせ　平松　典子：麻酔科

近隣医療機関のご紹介

坂下内科消化器科

URL：http://www.sakashita-naika.com/

〒651-1121
神戸市北区星和台
６丁目28－４

電　話　078－593－7515

診療科目：内科・消化器内科

診療時間：午前９時～12時
午後４時～７時

休 診 日：木・土の午後、日・祝祭日

坂下　正典　先生

平成19年10月に父から医院を継承して、４年あまりが経ちました。消化器内科の勤務医から開業医となり、当初は色々不慣れなこともありましたが、ようやく落ち着いてきた感があります。

当院の特色は、地域における身近なかかりつけ医としての役割、そして消化器病、消化器内視鏡の専門医としての役割、この２つが軸となっております。胃および大腸の内視鏡検査に関しては、勤務医の時から「苦痛がない」だけでなく「迅速かつ詳細な」をモットーに、こだわりをもった検査を行っております。また大腸ポリープ、早期癌に関しては、20㎜程度（条件がよければ30㎜程度）までの大きさの病変は、原則的に日帰りで内視鏡手術を行っております。

平素、社会保険神戸中央病院の各科の先生方にも時間内、時間外問わず、たいへんお世話になっており、心から感謝申し上げます。

今後も、最新の知見に基づいた医療、そして心のこもった医療が実践できるよう、職員一同努力していきたいと考えております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

次回予告

第25回　公開医学講座

ロコモーティブシンドロームと変形性膝関節症について

講　師：整形外科医長　藤田　伸弥
日　時：平成24年３月18日（日）13時～
場　所：２階会議室
受講料：無料（予約不要）

脳卒中相談窓口の開設について

当院では、この地域での脳卒中患者様のために、地域医療推進室（患者様相談窓口）に**『脳卒中相談窓口』**を開設することにいたしました。

①脳卒中を経験したが再発が心配
②脳卒中後に手足のつっぱり（痙縮）や痛み（中枢性疼痛）などの後遺症で苦しんでいる

といった悩みを持っておられる患者様あるいは、ご家族はご相談ください。

窓口担当者が対応し、必要に応じて専門外来で検査・診断させていただきます。

すでに、脳卒中について、かかりつけ医の医師がいらっしゃれば、かかりつけ医からの紹介状があれば更に迅速に対応できます。

脳神経外科部長　松本　圭吾

11月から外来部門にボランティアさんが活動開始

病院内の場所が分かり難い方は、聞いてください！
ご案内致します。お子さんの見守りもします！
水色のストライプのエプロンが目印です！！
１階外来フロアの総合案内の付近にいます！
どうぞ宜しくお願い致します。

～外来ボランティアより～

ご存知ですか？

入院費が軽減される保険制度があります

◆69歳以下の３割負担の方へ

限度額認定証を申請しておけば、入院費が高額にならず**家計に優しい制度**です。
入院前に是非申請し、準備しておきましょう。

例）保険点数100,000点の場合（１点＝10円）
３割負担では300,000円

適応区分	計　算　方　法	窓口負担額
A	150,000円＋ （1,000,000円－500,000円）×１％	155,000円
B	80,100円＋ （1,000,000円－267,000円）×１％	87,430円
C	35,400円	35,400円

※自己負担限度額は暦月ごとの計算となります

限度額認定証があればＢの場合自己負担が300,000円から87,430円になり、**約21万円軽減**されます。

◆70歳以上の方へ

福祉医療をお持ちでない１割負担のみの方は月の上限額が44,400円です。

限度額認定証の申請は不要です。
住民税が非課税の方は別途減額措置があるので、役所へご確認ください。

※上記金額には自費分、食事代は含まれません。
※平成24年４月には金額が変更される予定です。

15歳以下でご入院される皆様へ

◆乳幼児医療保険（小学３年生まで）をお持ちの方へ
医療費は保険証に記載通り、必要ありません。
食事代・個室代はかかります。

◆こども医療保険（小学４～６年生まで）をお持ちの方へ
医療費は保険証に記載通り、必要ありません。
食事代・個室代はかかります。

◆各種福祉医療（母子・身障・特定）をお持ちの方へ
医療費は保険証に記載通り、一部負担金が必要です。

◆神戸市にお住まい（中学１年～３年まで）の方へ
入院費をお支払い頂き、市民税所得割額が**23.5万円未満の場合**は区役所へ領収書を持って申請すれば、償還払いがあります。

◆他の市区町村にお住まい（中学１年～３年まで）の方へ
市役所・区役所へお問い合わせ下さい。

★お知らせ★

わが国では、平成21年度より、日本・インドネシア経済連携協定に基づき、外国人看護師・介護福祉士候補生の受け入れを実施しています。これまでに、インドネシア・フィリピン両国併せて1,360名の候補生が日本で勉強しています。

当院でも、平成24年１月６日より女性２名のインドネシア人看護師候補生を受け入れています。

彼女たちは、３か月間インドネシア、６か月間大阪で、日本の文化、歴史、風習と日本語の勉強をして、３年以内に看護師の国家資格を取得するために、働きながら勉強しています。

慣れない土地で頑張る２人を、温かい目で見守りながら応援して頂きたいと思いますので、宜しくお願い致します。

ペットボトルのキャップを集めて世界の子どもたちを救おう！

発展途上国の子どもたちへのワクチン提供と、分別収集による再資源化促進の取り組みも早１年が過ぎました。

みなさんの温かいご支援のお陰で平成22年10月から平成23年11月までの間で、84,400個のキャップが集まり、105.5本ものワクチンを送ることができました。

これからも、地域のみなさん、職員共に一丸となってこの活動を続けていきたいと思います。

引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。

Upple's（女性事務職員自主活動）

外来改修工事のお知らせ

長らくご不便をお掛けいたしておりました、外来改修工事が終了いたしました。
皆さまのご協力ありがとうございました。
お困りのことがございましたら、お近くのスタッフまでお声掛けください。

メディカルライン

消化器内科からのお知らせ

消化器内科 主任部長　安田　光徳
（兵庫県肝炎対策協議会委員）

C型肝炎に対する新治療導入について

当科では、消化管、肝・胆・膵の全分野に、地域で最良の医療を提供することをモットーに努力を続けております。日頃は多くの地域の先生方のご協力に深謝しております。

さて、本年１月より当院消化器内科では、昨年末に承認されました新抗ウィルス剤テラビック（テラプレビル）錠を用いたペグインターフェロンとリバビリン（レベトールカプセル）を用いた３剤併用療法を導入致しました。対象者は、Ｃ型慢性肝炎で、１型・高ウィルス量の患者様です。従来治療より奏効率・治療効果が数段高く、大きく期待される治療法です。但し、副作用管理の問題もあり、治療可能施設が限定されております。肝臓専門医が常勤しており、日本皮膚科学会専門医（当院常勤）と綿密に連携の図れる施設に限定されています。また、治療開始は、２週間程度の入院が強く推奨とされています。当院は、神戸市北区で唯一の、兵庫県の定める肝疾患専門医療機関で、兵庫県肝疾患診療連携拠点病院の指定を受けており、この新しいＣ型肝炎治療が可能です。以前のＣ型肝炎インターフェロン治療で、再燃、無効であった方、はじめての治療を考えられる患者様、また、地域でご診療されている先生方、どうかお気軽に当科まで、ご相談下さい。

平成24年１月

内科（糖尿病）からのお知らせとお詫び

明けましておめでとうございます。

昨年は、多くの患者さんをご紹介頂きまして有難うございました。

新年早々ですが、近隣の先生方にお詫びを申し上げなくてはなりません。当院の糖尿病外来におきましては、金曜日に外来枠がなく、長い間ご迷惑をおかけして参りました。そこで、昨年12月より内科松田英士医師を担当医として、金曜日にも糖尿病外来を開設させていただきました。ところが、一身上の都合により松田医師が今年度末で退職することとなり、残念ですが２月24日をもちまして金曜日の糖尿病外来は閉鎖させていただくこととなりました。

ご迷惑をおかけいたしまして誠に申し訳ございません。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

内科部長　藤井　光広

第19回『北神ストロークカンファレンス』のご案内

この度、下記の要領にて北神ストロークカンファレンスを開催いたします。

当院では、地域の病院・診療所の医師、コメディカルの方々を主な対象として脳卒中についての勉強会を行っております。

今回は、脳卒中後遺症に対する機能的脳神経外科治療について、国立病院機構奈良医療センター　特命副院長　平林秀裕先生に豊富な治療経験をもとに最新の知見についてお話いただきます。

先生方におかれましては、誠にご多忙とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご来聴ください。

日　時：平成24年２月16日（木）　19：00～21：00

場　所：社会保険神戸中央病院　２階会議室

19：00～19：45
【一般公演】　座長：社会保険神戸中央病院　神経内科医長　小別所　博
①「脳虚血に対する血行再建術の適応と手技」　脳神経外科医長　武藤　達士
②「当院での脳卒中地域連携の現状と課題」　脳神経外科部長　松本　圭吾

19：50～21：00
【特別講演】　座長：社会保険神戸中央病院　脳神経外科部長　松本　圭吾
「脳卒中後遺症に対する機能的脳神経外科治療の現状と今後」
独立行政法人国立病院機構　奈良医療センター　特命副院長　平林　秀裕 先生

※日本医師会生涯教育制度における単位取得証明書（体験学習）を発行いたします。　※当日は軽食をご用意させて頂いております。

地域医療支援病院承認のご報告

この度、当院は平成23年11月９日付で兵庫県知事より「地域医療支援病院」としての承認をいただきました。これもひとえに、地域の先生方のご支援の賜物と感謝しております。

「地域医療支援病院」は地域で必要な医療を確保し、地域の医療機関との連携を図り、かかりつけ医を支援する中核病院としての役割を担います。

今後もより一層、地域医療機関の先生方との連携を強化し、また、地域医療従事者の皆さまへの研修会開催等、地域のニーズにお応えできるよう尽力いたします。

今後とも、ご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。